



7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに
9.産業と技術革新の基盤をつくろう



牛糞燃料作りは女性の仕事とされてきた。素手でこねて成形し、壁に張り付けて乾燥させる。

牛糞燃料が描く未来

北インドのヒンドゥー教の聖地バナラス。入り組んだ細い路地裏を歩いていると、かなりの確率で、そこかしこに落ちていた「ぞいつ」を踏みます。もう人生の半分以上、インドに通い続けているのに、いまだに避けるスキルは身につかないし、あのなんとも言えない感触には慣れることがありません。なんの話かというところ——ええ、牛糞のことです。

そんな牛糞が、人々の暮らしに深く根づいたものと知ったのは、農村を訪ねるツアーに同行したときのこと。インドの農村では、煮炊きに牛糞を押し固め乾燥させたものを使います。ワラを混ぜ込んだり粘度を変えて作り分けし、火力の強さや持続時間など用途によって使い分けられます。近年では急増するエネルギー需要を前に、天然ガスよりも製造コストが低く、メタンガス排出の削減もできるエコ燃料として利用の模索が始まっており、牛糞を燃料にして走るバスの営業も始まっています。

またこの牛糞燃料は、牛を聖なる動物とするヒンドゥー教の宗教儀礼にも欠かせません。都市に住む中・上流階級は土のある生活と無縁ですが、やはり宗教儀礼には聖なる牛糞がないとキマらない……というわけで、大手通販サイトで牛糞が売られているのを見つけたときは驚きました。

牛は草を食べ土地を開き、乳を提供し、糞は燃料となる——牛と人間が健やかに共生するかぎり持続可能なよき循環が巡る。牛糞には未来がある、と思っています。

今月の投稿文と写真 八尋美樹さん
インド旅行企画アドバイザー。八尋企画代表。映画ロケ地を巡るツアーや女性向けのツアーなどを企画し、新しいインド旅行を開拓している。「楽しいインド案内人アンジャリ」の名前でツイッターで発信中。

あなたの投稿をお待ちしています！

「わたくしが見つけたSDGs」に写真と文章をお寄せください。貧困や気候変動、格差ほか、いま世界が直面している課題やその解決に向けた取り組みのエピソードなど、SDGsの17の目標を身近に感じられる作品をお寄せください。

応募要項：写真1点（ご自身が撮影されたもの）、文字原稿400字以内。

*写真内の被写体に関する肖像権およびその他の権利は、投稿者の責任において被写体や権利保持者の承諾を得るなど必要な措置をとったうえでご応募ください。

ご応募・お問い合わせ先 ▶ ML_JICAPR@jica.go.jp (「mundi」編集部宛て)



SDGsとは

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) は「誰一人取り残さない」をスローガンに、格差や貧困、環境破壊など世界が直面している問題の根本的な解決を目指す17分野の国際目標。

持続可能な開発目標 (SDGs) と
JICAの取り組み

